①2024年度 教務部(全学教務委員会)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異, 実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善, 対策を行い, 次への「PLAN」へ繋げる
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は, 4%以内を目標とする。学年ごとにみた退学者の目標値(過去3年間の平均算出)は, 1年生:5.1%, 2年生:4.8%, 3年生:1.8%, 4年生:3.0%以下である。 学部・学科の特性に合わせ個人面談, 初年次教育, ゼミ活動などの少人数で学生と関わりコミュニケーションに努める。学生の学修状況について種々の学修成果アセスメント結果に基づき個別対応を行う。 学修状況調査は継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。回収率は, 2023年度を目安として60%以上とし, 実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。 学修状況調査実施後には, 教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接, 分析担当者に送信する)。退学者の要因分析を検討する。	教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者と授業満足度を学部・学年ごとに調査し, 教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行った。また分析結果を, 教務部として共有し, 次年度の教育改善に活かした。各学部により卒業生・就職先へのアンケートを分析し教育改善の検討を行った。	学修状況調査の回答率:全学:44.1% 外国語学部:17.81% 経営学部:25.4% 人間学部:2.2% 保健医療技術学部:61.3% 授業満足度(授業):全学:77.7% 外国語学部:73.0% 経営学部:69.8% 人間学部:83.2% 保健医療技術学部:76.4% 授業満足度(学修環境):全学:77.0% 外国語学部:76.2% 経営学部:71.6% 人間学部:82.6% 保健医療技術学部:74.0%	全学生数に占める退学者の割合は5.0%であり, 昨年度の4.4%。昨年度の3.7%に比較して増加した。学年別の結果を前年度と比較してみると, 1年生:6.2%→6.6%, 2年生:6.5%→8.0%, 3年生:1.9%→2.3%, 4年生:2.9%→2.9%であった。今年度は特に1, 2年生が高い値であった。 学修状況調査の回答率は当初目標に掲げた60%に届かず44.1%となった。外国語学部, 経営学部が低率であり回答の向上を目指す必要がある。 授業満足度, 学修環境満足度は, いずれも75%を超える結果となったが, 学修状況調査の回答率が低いことからまずは回答率の向上を目指す必要がある。	全学教務委員会議事録, 学修状況調査	退学者低減に向けた取り組みを行う 学修状況調査の実施率向上と分析
②学修成果アセスメントの実施:DP到達度チェック(学修ポートフォリオ)の実施・分析 学修ポートフォリオに関する実施率を改善し・意識向上を図るため学生・教員に対して各学部学部長, 教務委員会を通じてはたらきかける。 学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。	DPの到達度を確保する目的で実施する学修ポートフォリオは, 学生の自己評価, 教員からのフィードバックともに100%を目標にはたらきかけた。DP到達度をB's LINKにて実施できる環境を作り全学的な取り組みとした。	学修ポートフォリオの実施率は以下の通り。 外国語学部: 全体:43.9% 1年生(目標):66.9% 2年生:30.1% 3年生:45.3% 4年生:37.1% 経営学部: 全体:32.0% 1年生(目標):87.1% 2年生:18.6% 3年生:13.1% 4年生:6.2% 人間学部: 全体:85.4% 1年生(目標):94.1% 2年生:86.1% 3年生:92.2% 4年生:74.8% 保健医療技術学部: 全体:99.3% 1年生(目標):98.9% 2年生:99.3% 3年生:99.1% 4年生:100%	学修ポートフォリオを用いてDP到達度チェックを全学にて取組んでいる。学部学科により, 実施率のばらつきが見られた。経営学部では, 特に2年次以降で低値であった。外国語学部は40%を超え, 人間学部では85%を超え, 保健医療技術学部は100%に近い値であった。	全学教務委員会議事録	学修成果アセスメントの実施率向上と整理
③学修成果アセスメントの実施:外部評価アセスメント(GPS-Academic, PROGテスト)の実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。	GPS-Academic(1年生), PROGテスト(3年生)を対象に実施し, 教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また結果については, 学部ごとに教育への活用方法を検討する。	GPS-Academic(1年), PROGテスト(3年)の実施率は以下の通り。 外国語学部:1年生83.4%, 3年生:88.6% 経営学部:1年生91.3%, 3年生94.3% 人間学部:1年生92.4%, 3年生:81.0% 保健医療技術学部:1年生99.4%, 3年生99.6%	GPS-Academic(1年), PROGテスト(3年)を実施した。回答率は全学部とも80%を超える実施率であった。結果は, 教学IR委員会に依頼して分析を行い, 各学部で教育改善の検討を行った。	全学教務委員会議事録	実施率維持及び運用を継続する。

①2025年度 教務部(全学教務委員会)

PLAN(計画)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は, 4.3%以内を目標とする。学年ごとにみた退学者の目標値(過去3年間の平均算出)は, 1年生:6.1%, 2年生:6.2%, 3年生:2.0%, 4年生:3.0%以下である。 学部・学科の特性に合わせ個人面談, 初年次教育, ゼミ活動などの少人数で学生と関わりコミュニケーションに努める。学生の学修状況について種々の学修成果アセスメント結果に基づき個別対応を行う。 学修状況調査は継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。回収率は, 2024年度を目安として60%以上とし, 実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。 学修状況調査実施後には, 教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接, 分析担当者に送信する)。退学者の要因分析を検討する。
②学修成果アセスメントの実施:DP到達度チェック(学修ポートフォリオ)の実施・分析 学修ポートフォリオに関する実施率を改善し・意識向上を図るため学生・教員に対して各学部学部長, 教務委員会を通じてはたらきかける。 学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。
③学修成果アセスメントの実施:外部評価アセスメント(GPS-Academic)の実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。

<p>④学修成果アセスメントの実施:基礎学力テストの実施・分析を継続実施し、その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。</p>	<p>基礎学力テストを、入学後早期に実施する。その結果については、学部・学科ごとに活用する。</p>	<p>基礎学力テストの結果は以下の通りである。 外国語学部:JCCオンライン基礎学力判定テスト(2科目):98.7% 経営学部:模擬SPI試験:95.3% 英語運用能力評価協会英語プレACEMENTテスト:86.1% 人間学部:JCCオンライン基礎学力判定テスト(3科目) 学部:99.0% コミュニケーション社会学科:100% 児童発達学科:100% 人間福祉学科:96.9% 心理学科:99.0% 保健医療技術学部: JCCオンライン基礎学力判定テスト(3科目) 理学療法学科:100% 作業療法学科:99.2% 臨床検査学科:100% 看護学科:100%</p>	<p>各学部が選定した基礎学力テストを、オンラインあるいは対面で実施した。いずれも高い回答率であり、学修指導の基礎データとして活用している。</p>	<p>全学教務委員会議事録</p>	<p>実施率維持及び運用を継続する。</p>	<p>④学修成果アセスメントの実施:基礎学力テストの実施・分析を継続実施し、その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。</p>
<p>⑤公開授業実施 学部ごとに運営方法・内容などの検討を行い、全学教務委員会で情報交換を行う。アンケート結果は当委員会で共有し、教育改善に反映する。</p>	<p>学部ごとに公開授業を実施した。アンケート結果は教務部で共有し、次年度の教育改善に活かした。</p>	<p>外国語学部:10月26日(土)11月30日(土):対面:7名 経営学部:10月26日(土):対面:19名 人間学部:10月26日(土):対面:7名(5組) アンケート回答数:6 保健医療技術学部:2024年11月11日(月)~15日(金):対面:ふじみ野:21組、本郷:9名</p>	<p>全学部とも対面形式の公開授業を行なった。経営、人間学部は1日、外国語学部は2日、保健医療技術学部は1週間を設定した。参加人数は外国語学部、人間学部で7名、経営、保健医療技術学部は20名近い参加であった。アンケートは概ね肯定的であった。</p>	<p>出席者アンケート結果</p>	<p>参加率向上と教育改善に反映させる。</p>	<p>⑤公開授業実施 学部ごとに運営方法・内容などの検討を行い、全学教務委員会で情報交換を行う。アンケート結果は当委員会で共有し、教育改善に反映する。</p>
<p>⑥その他 全学教養教育委員会、DX推進センターと連携しデータサイエンス科目群を含む全学共通科目の運用を検討する。 教学IR室と連携し学修成果アセスメントの分析を実施し教育改善に活かす。分析方針は教学IR室と連携し検討する。学生の学修促進を目的とした柔軟な学年暦、時間設定を検討する。私立大学改革総合支援事業における教育関連項目を精査し実施の検討を行う。学修成果アセスメントの整理統合を行いアセスメントポリシーを作成する。</p>	<p>全学教養教育委員会と連携し、B's Standard(全学教養教育科目)の検討を行った。DX推進センターと連携し本学データサイエンス科目群の内容・実施方法を検討した。教学IR室と連携し学修成果アセスメントの分析を実施し教育改善に活かした。2025年度ならびに2026年度学年暦、時間設定を検討するとともにクォーター制、100分授業の運用について検討した。学修成果アセスメントの整理統合を行いアセスメントポリシー案を作成した。DP到達を確認するためのルーブリック評価案を作成した。</p>		<p>全学教養教育委員会と連携し、B's Standard(全学教養教育科目)の検討は途中段階である。DX推進センターと連携し本学データサイエンス科目群の内容・実施方法を検討しは応用プログラムについて継続検討が必要である。教学IR室と連携し学修成果アセスメントの分析は継続検討が必要である。学年暦100分授業の運用について継続検討が必要である。学修成果アセスメントポリシー案の公示、DP到達を確認するためのルーブリック評価案の運用実施が必要である。</p>	<p>全学教務委員会議事録 4学部履修要綱</p>	<p>関連する機関との情報交換及び連携を図る</p>	<p>⑥その他 全学教養教育委員会と連携し、B's Standard(全学教養教育科目)の検討を行う。 DX推進センターと連携し、データサイエンス科目群の運用を検討する。 教学IR室と連携し学修成果アセスメントの分析を実施し教学活動の改善に活かすシステム構築をする。分析方針は教学IR室と連携し検討する。学生の学修促進を目的とした柔軟な学年暦、時間設定を検討する。私立大学改革総合支援事業における教育関連項目を精査し実施の検討を行う。学修成果アセスメントポリシーの決定及び公示、ルーブリック評価案の運用実施を検討する。</p>